のり養殖通報第８報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議　　平成 25 年 1 月 9 日発行

[気象]冬型継続，今後は周期的な天候変化。

○ 12 月下旬以降は冬型が強まり，気温は一時期を除き平年を大きく下回る日が増えている（図 1）。

○ 12 月下旬～1 月 8 日の新富津における降水量は 106 ㎜（平年 30 ㎜），平均日照時間は 5.1 時間/日（平年 6.1 時間）。年末のまとまった降雨で降水量は平年を大きく上回っている。

○ 気象予報によると，今後も冬型の気圧配置の日が多いものの中旬以降は周期的に天候が変化し太平洋側でも雨や雪の降る日があると予想されている。

[海況]植物プランクトン増加，栄養塩はやや減少

○ 黒潮からの暖水が東京湾口へ波及し 15℃台の水温帯が浦賀付近でも観測されているが，のり漁場への直接的な影響は見られていない。新富津のり漁場における観測値では，水温は緩やかな降下が続き現在は 11～12℃で推移している（図 2）。

○ 1 月 8 日に実施した東京湾の観測結果では，表層水温は内湾でほぼ 10℃前後，内房では 11～13℃台。内湾ではスケレトネマ等の小型の珪藻類が増加し，透明度が低下。栄養塩はやや減少してきたが，現時点ではほぼ十分な量が含まれている（表 1）。

[今後の見込みと留意点]　周期的な天候変化に期待

○ 内湾全域でスケレトネマ等の小型の珪藻類が増加。これらの珪藻類は昨年，一昨年もほぼ同時期に増殖し栄養塩減少を引き起こしている。本種による赤潮は通常被害が長期化することは少なく，時化や降雨によって解消することが多いが，晴天や凪が継続すると栄養塩が減少する可能性がある。周期的な天候変化による時化や降雨に期待。

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードできます。
次回は 1 月 23 日頃発行します。

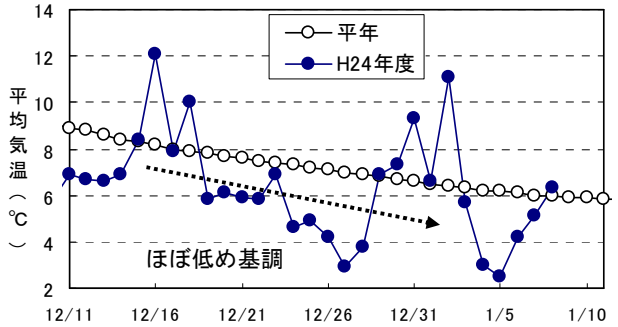

図1　日平均気温　平年との比較（千葉測候所）

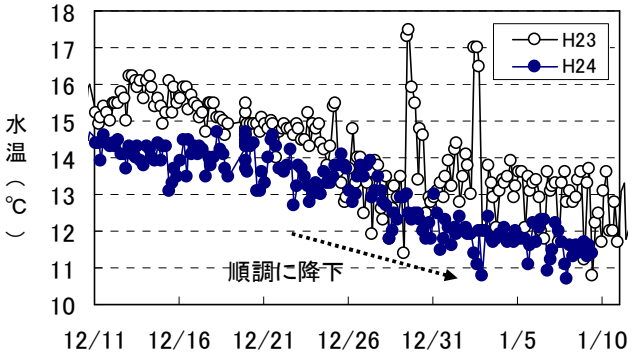

図2　昨年と今年の水温経過（新富津観測ブイ）

表 1　水質観測結果（1/8）

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	9.1	30.6	8.2	2.4	629	25
盤洲 B ブイ	10.5	30.9	8.2	3.0	550	20
盤洲 A ブイ	10.2	31.2	8.1	3.0	557	24
富津ベタ	10.9	31.0	8.1	5	470	33
2 海ほ下	11.3	33.2	8.2	12	358	29
大貫沖	11.7	33.6	8.2	7	287	24
湊沖	13.4	33.2	8.2	11	194	17

*溶存無機態窒素（μg/*l*）、**リン酸態リン（μg/*l*）